

侍浜小学校角柄分校

(4月から侍浜小学校と統合)



1 / 分校最後の卒業式を終え記念撮影
2 / あいさつをする田中淳校長
3 / 分校への思いを込めた作文を朗読する田村翔くん
4 / 閉校式典を見守る地域住民
5 / 児童と同窓生らが角柄太鼓を披露
6 / 開校50周年以降に在籍した学校長などに感謝状を贈呈



1月3日、校舎前で地域の皆さんと記念撮影（写真提供…北村正勇さん）

学校に ありがとう

地域に愛された学校

侍浜町角柄地区の学校として64年の歴史を築いた侍浜小学校角柄分校（田中淳校長・児童3人）。3月24日、閉校式典が行われ、地域に愛されてきた学校に約130人が別れを告げました。

始めに、山内隆文市長が「角柄分校の歴史は、いつまでも私たちの心の中に生き続けます。分校の思い出を胸に、多くの仲間と学び、励まし合いながら、力強く大きく成長してください」と式辞。田中校長は「子どもたちのために手作りで学校を立ち上げ、これまで支えていただいた皆様のおかげです」と地域への感謝の気持ちを込めてあいさつを述べました。

お別れの言葉では、児童が分校での思い出を発表し「地域の皆さん、ありがとう。角柄分校、ありがとう」と大きな声で感謝。しっかりとしたまなざしで前を見据えました。続いて、全員で分校の歌を斉唱。参加者それぞれの思い出と学校への感謝を込めた歌声は、校舎に響き渡りました。

思い出を語り合い

式典終了後、校庭で閉校記念碑の除幕式が行われ、山内市長や学校関係者、全校児童らで除幕。角柄地域の歴史が込められた分校の歌が刻まれた記念碑に向かい、参加者は思いを巡らせていました。

市内催事場で開かれた「思い出を語る会」には多くの地域住民らが参加。オープニングで児童と同窓生ら7人が、同校に20年以上に渡って引き継がれる「角柄太鼓」を披露しました。田村英寛閉校記念実行委員長のあいさつに続き、感謝状の贈呈や学校の歩み振り返るビデオ上映などが行われ、参加者は大いに思い出を語り合いました。

子どもたちを大きく育て、交流・ふれあいの場として地域と歩んできた角柄分校。多くの人に惜しまれながら、長い歴史に幕を閉じました。

角柄分校への思い



自慢の学校

大淵 竜くん (6年)

温かみのある木造校舎が自慢の学校！学習発表会で披露した劇や歌、合奏を地域の人に喜んでもらったことが最高の思い出。中学校では部活で野球を頑張りたいです。



分校まつり

田村 翔くん (5年)

畑で収穫した野菜を使った料理を、おばあちゃんたちに食べてもらった分校まつりやキャンプが思い出です。本校と一緒にマラソン大会での1位もうれしかったな！



家族が通った

田村 渉くん (2年)

お父さんもおばあちゃんも通った学校がなくなるのは残念です。分校のクリスマス会も楽しかったし、竜くんに教わった縄跳びで、二重跳びを21回もできるようになったよ！



角柄の宝物

大内田由二郎さん (分校用地提供者)

戦後の何もない時代に、自分も含め、みんなの手で作った学校は角柄の宝物でした。閉校は本当に寂しいですが、子どもたちが素直でたくましく成長することを願っています。



地域の絆

田村 英寛委員長 (閉校記念実行委員会)

児童と作った分校の歌は、地区の住民全員が角柄の歌として愛唱しています。分校は学び舎としての使命を終えても、これからも地域の絆として生き続けると信じています。



地域と交流

小野寺トモ子先生 (角柄分校主任)

地域の皆さんと交流し、一緒に体験活動ができる素晴らしい学校です。子どもたちの積極さにも感じます。これからは友達をたくさん増やして頑張ってもらいたいですね。

侍浜小学校角柄分校

■創立

昭和24年4月1日

■主な歩み

戦後、開拓地として誕生した角柄地区。住民の熱意と多大な奉仕作業によって校舎が完成。児童数18人、教員1人、1学級で開校した。昭和38年には50人の児童が在籍。これまでに約221人の卒業生を送り出した。

昭和61年、現校舎が完成し、平成5年には体育館の落成に併せて「分校の歌」(作詞・三好京三、作曲・星吉昭)も完成。平成11年には創立50周年を迎えた。

児童が減少してからも、侍浜小学校本校との交流や、地区住民の温かい支援を受けながら、積極的に教育活動を展開。64年の長い歴史を刻んだ。

ぼくたちは、角柄分校が大好きです
緑豊かな この角柄の地に建っている
赤い屋根の校舎を見ると
とてもうれしい気持ちになります

たくさんの思い出を ありがとう
地域みなさん ありがとう

そして、角柄分校 ありがとう

(全校児童によるお別れの言葉から抜粋)

